

- 一、木綿十三包
- 一、舗蓋¹⁸十七個

右、福建等处承宣布政使司に咨す

嘉慶十四年（一八〇九） 月 日

注 (1) 解送 おくりとどける。「解」は警護して送る、の意。

(2) 徳之島地方 奄美大島と沖永良部島との間に位置する。奄美諸島は古琉球時代は琉球の領土。一六〇九年の島津侵攻により薩摩藩の直轄地となる。

(3) 東間切 徳之島三間切（東・西目・面縄）の一つ。徳之島東部を占め、亀津・秋徳・花徳など亀津噺六村、諸田・井之川・神之嶺など井之川噺七村からなる。

(4) 江南蘇州府鎮洋県 中国東部、長江河口域にある江蘇省太倉州に属する。

(5) 貔子窩 中国東北部、遼東半島の南岸に位置し、現遼寧省大連市普蘭店にあった皮口鎮の一九四五年以前の地名。黄海に面した港があり、新石器時代の「貔子窩遺跡」で有名。

(6) 只だ看るゝ覆うが如し 原文は「只看銀濤捲雪浪翻銀濤転則日月似驚浪動則星河如覆」。「銀濤」は白く光る波、銀波、「雪浪」は白く泡立つ波、「湍」は急流、早瀬の意。全体として大風荒波の猛烈なさまを表現している。明末の文学者・凌濛初の編著『初刻拍案驚奇』（明末の口語短編小説集）が出典か。

(7) 星河 天の川。

(8) 船桅を把して大桅と做し 桅はマスト。船のともものマストを中央のマストとして。

(9) 秋徳港 徳之島東間切に属する。現徳之島町。秋徳村は秋津と

もいう。

(10) 商議 相談しあうこと、協議して。

(11) 宝島商船 薩摩侵攻後の近世琉球では、中国に対して対日本關係を隠蔽していたため、琉球以外の日本の商船は「宝島」（トカラ列島）の船と称することが多かった。

(12) 魏崇仁 嘉慶十四年の護送都通事。高嶺里之子親雲上（家譜（二）『王朝詮の譜、一一頁』。『宝案』では嘉慶五年の王舅通事（巻九二）、二十二年の在船都通事（巻一二三）として名がみえる。

(13) 航海の末員 進・接貢使臣及び進・接貢船の乗組員を指す。

(14) 驚濤 台風の巨浪。

(15) 天上聖母 媽祖のこと。媽祖は福建省莆田県に実在した女性に由来する神で、航海の守護神とされる。

(16) 棕索 シュロ製のなわ、ロープ。

(17) 高糧 コーリヤン（高粱）か。

(18) 舗（舗）蓋 夜具。掛けふとんと敷ふとん。

2-107-09

国王尚灝の、中国の難民兪富南等の護送のため都通事魏崇仁等に付した執照（嘉慶十四（一八〇九））

琉球国中山王尚（灝）、護照を給発して関津に憑し以て難人を送らんが事の為にす。

照得したるに、嘉慶十四年三月初一日、江南蘇州府鎮洋県の商民兪富南等、共に十七名、船一隻に駕して関東貔子窩に到り、以

て貿易を為して回郷せんとするの時、洋中陸かに大風に遇い、本国属地徳之島に飄入し、礁に衝りて破船す。随いで該地方官、救養し護送して国に到る。業経に館に発りて安挿し、例に照らして廩餼等の項を給与し、部文内の奉旨の事理に欽遵し、収養して解送せしむ。

茲に特に都通事魏崇仁等を遣わし、海船一隻に坐駕し、梢役共に六十七員名を率領し、前みて閩省に至らしめんとす。

所有の差去せる員役は、文憑無ければ、以て各処の官軍の阻留して便ならざるを致すを恐る。此れが為に王府、札字第一百九拾五号の半印勘合の執照一道を給発し、都通事魏崇仁等に附し、収執して前去せしむ。如し経過の関津及び沿海巡哨の官軍の驗実に遇えば、即便に放行し、留難して遲滞するを得る母からしめよ。須らく執照に至るべき者なり。

計開、難商の名数

俞富南 趙元祥 衛燦如
 黄錦文 沈彩鳳 朱恵方
 俞叙元 朱彦邦 李永興
 儲阿狗 沈發林 薛三受
 袁天宝 石紹麒 顧三挂
 俞位南 顧二

護送都通事一員 魏崇仁 人伴四名
 司養贍大使一員 馬世倬 人伴四名

管船夥長・直庫二名 孫光裕 維順利
 水梢共に五十五名

右、執照は都通事魏崇仁等に附し、此れを准けしむ

嘉慶十四年（一八〇九）

注

(1) 司養贍大使 養贍は養育する、扶養するの意。漂着した中国人を護送する職務である。

(2) 馬世倬 嘉慶十四年の司養贍大使。『宝案』では嘉慶三年の在船使者（卷八八）として名がみえる。

(3) 孫光裕 乾隆四十六〜咸豊三年（一七八一〜一八五三）。久米系孫氏（大嶺家）六世。大嶺親雲上。嘉慶二十二年（一八一七）都通事、道光十五年（一八三五）正義大夫、同十六年申口座に陞る。同十八年には冊封の式典を無事終えたことから紫金大夫の位を頂戴し、里之子籍に陞っている。嘉慶八年に読書習礼のため、嘉慶十四年・道光五年に難民護送、道光十二年に都通事、同十八年に進貢および請封の使者として五度中国に渡っているほか、異国大夫、長史などを務め、道光二十二年には総理唐榮司を務めた（『家譜（二）』四四〇頁）。

(4) 維順利 嘉慶十四年の難民護送の管船直庫。『宝案』では嘉慶二十年にも管船直庫（卷一一八）として名がみえる。